

報新事薬

平成25年（毎週1回木曜日発行）昭和33年8月4日 第三種郵便物認可・薬事新報社©

7月25日

第2796号

20【5・ニュース】

薬事新報 No. 2796 (2013)

SMONAセミナー 100名以上が受講

SMONA（協同組合臨床開発支援ネットワーク）は6月15日、SMONAセミナー・CRC基礎講座を東京都中小企業会館で開催した。SMONAや日本SMO協会の会員を中心に100名以上が受講した。

中野重行氏（大分大学名誉教授／大分大学医学部創薬育薬医療コミュニケーション講座客員教授）は教育講演「これからのCRCに期待すること」で「NBIMという言葉がある。Narrative Based Medicineは物語に基づく医療。患者は常に自分自身を主人公とした物語を心に描いている。治験に参加することが、その物語にどう関わるか、影響を及ぼすかについて関心がある。患者は未来の医療に貢献すると同時に、ボランティアとしてリスクを負ってくれている。患者が正直に話し

てくれないと厳密なデータは得られない。CRCとしては、なんでも話してもらえようというパートナー関係を築いていくべき。また、患者、医師、依頼者の全てに接するのはCRCだけ。そういった役割も重要」と述べた。

作広卓哉氏（一般財団法人 臨床試験支援財団理事）は「医薬品開発における臨床試験」をテーマに講演。CRCに対して、倫理的な視点・科学的な観点からの思考を求めるとして「医師と被験者の間で行われるような依頼者が直接関与できない仕事を優先してほしい。原資料のマネジメント、医療機関内の調整・信頼関係の構築などを期待している。患者のような考えと医療人としての行動——言い換えれば素人・玄人の二つの視点を同時に持つてほしい」と述べた。

今回は初の試みとして、作広氏のセッションの最後にSMONA黒野富男事務局長、現役CRC2名が登壇し、作広氏を含めた4名でパネルディスカッションが行われた。CRCの仕事を通して日本の治験を活発にするために何をすればよいのかを討論した。

また、鉢村和男氏（北里大学医療衛生学部臨床検査学講師）による講演「臨床検査値の読み方」や、SMONA GCP委員会による「CRC業務とGCP 基礎編／応用編」が行われた。